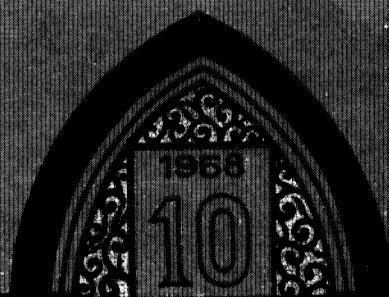


日本大学



工科校友会

日本大学工科校友会
編集委員

1958
VOL. 3 No. 10

| | | |
|------|------|---|
| 委員長 | 川崎 | 撰 |
| 委員幹事 | 亀井幸次 | 郎 |
| 委員 | 伊藤真 | 治 |
| " | 大内 | 順 |
| " | 穴沢一 | 郎 |
| " | 宮川育 | 郎 |
| " | 脇田嘉 | 夫 |

日本大学工科校友会誌

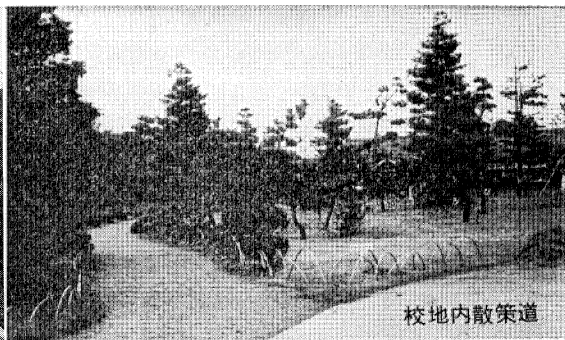
目次

| | | |
|--------------------|-----------------------------------|----|
| 中近東に旅して..... | 教授 鈴木雅次..... | 2 |
| 工学部長と校友会長の対談..... | 工学部長 横地伊三郎 工学博士 校友会長 松島俊之..... | 4 |
| 日大工業学園の近況について..... | 工学博士 小野竹之助 外..... | 6 |
| 小河内貯水池ダム工事..... | 鈴木清造..... | 15 |
| 米国留学記 II..... | 講師 植之原道行..... | 19 |
| プロペラのキャビテーション..... | 教授 池森亀鶴..... | 27 |
| 津田沼短大だより..... | | 28 |
| 東西姿熊考 II..... | 亀井幸次郎..... | 30 |
| 学生活動工学祭..... | 学生自治会..... | 33 |
| 学園だより..... | | 40 |
| 執筆者紹介..... | | 42 |

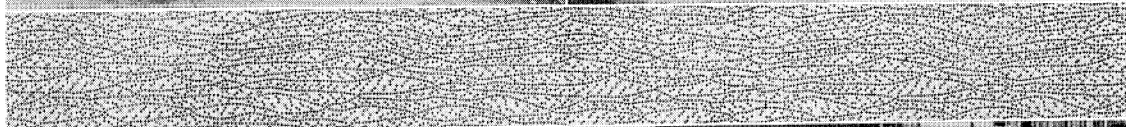
日大工科津田沼校舎だより



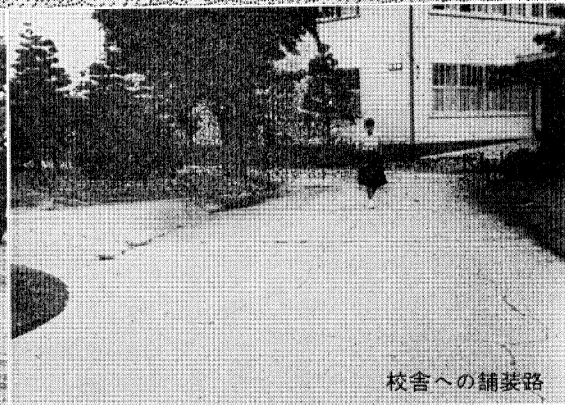
日大津田沼校舎正門



校地内散策道



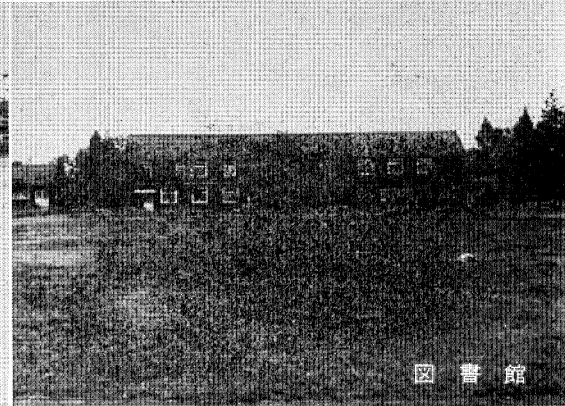
緑の色豊かな校内芝生
の上で語り



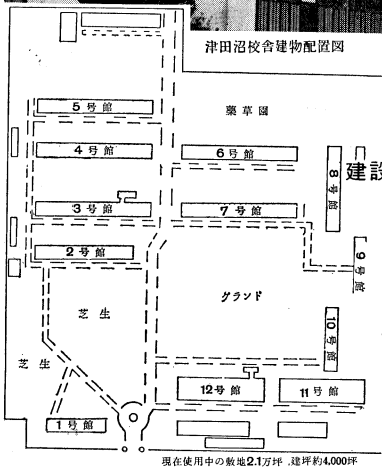
校舎への舗装路



掲示板附近

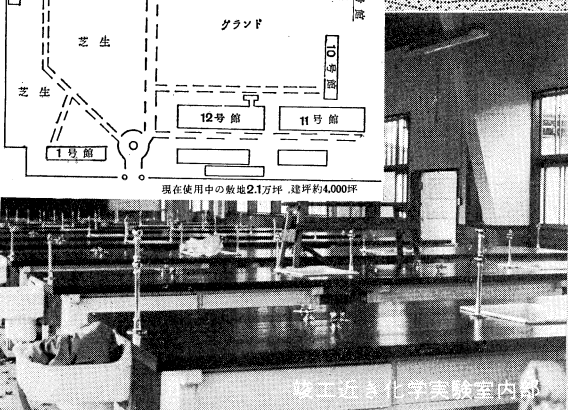


図書館



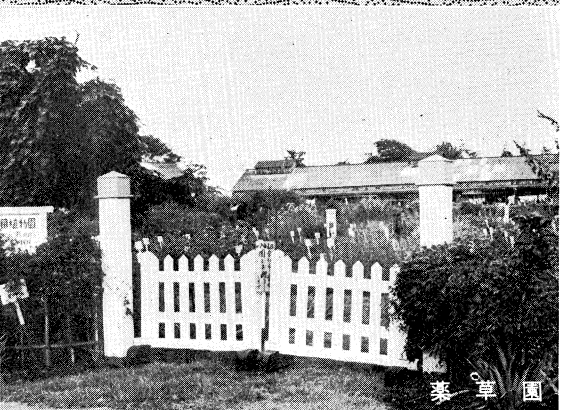
建設(土木建築)実験室
全 景

化学実験室附属天秤室外観



竣工近き化学実験室内観

工技実験室



菜 園

編集後記

クリスマスもすぎ新年の休日というのに、編集子にとっては「なまけ者の節句働き」の類いで、最も多忙に活躍せねばならない時季であつた。

小野教授や岡井先生等の要請にこたへべく、最大の努力を傾注して、発刊予定日までに出来上ることを期待し、事務当局の尻をたたいた。従つて紙面の組み方、順序あるいは写真の layout 等に関する注意が等閑に付せられ勝ちであり編集子の意に満たないものを、校友諸兄の机上に御送付するのをおわびする次第である。

何日の編集の時でも原稿の集りが悪いので、編集会議には様々の企図が提案されるが、実現できかねるといつた事態に直面しているのである。幸い地方支部からの原稿が割合に送られてくるようになったのは、それだけ地方校友の関心が「桜工」に向けられてきたことを意味しているものであろう。

次号は、新しい企図で紙面を飾りたいと考えている。然しパンフレットでないで、その都度発生した新しい時潮は可及的に紙面に反映したいと考えている。(K)

新年そうそう「桜工」を校友各位にお届けすることができました。校友会の一員として幸先の良い出発を喜んでいきます。

第10号は、待望の増頁とアート紙による写真版のそう入と、一応初めに予定した線まで到達することができたわけです。勿論内容も、増頁に応じた充実したものと思つています。今回は、工科校友会事務局で局長以下藤田氏(編集担当)を始め全員が会誌の発行に努力してくれたお陰と深く感謝しております。

原子力、人工衛星と人類の飛躍的新春を迎え、わが校友会もこの科学、技術時代に即応した新しい考えのもとに発展することを希望し、努力するものです。

文字通り、校友のために粉骨砕心して下さる亀井本誌委員が還歴を迎えました。亀井氏の熱と若さと努力に対してその年齢を信じる者はいないでしょう。亀井先輩の還歴は、老境への一步ではなく、耳順の人格をそなえた新生への誕生として祝福するものです。(K)

執筆者の横顔

鈴木雅次教授 大3九大工学部卒業工学博士、欧米留学後土木技術官の最高峰であつた内務技監に累進、日本土木学会長にも就任された。現在は日大教授、国土総合開発研究所長、総理府国土総合開発審議会委員、北海道開発審議会委員、離島振興審議会委員、運輸省港湾計画審議会長。港湾審議会委員、通産省産業合理化審議会委員。経済企画庁経済審議会建設交通部会専門委員。建設省河川審議会委員、日本港湾協会副会、長河川協会理事、国土計画協会理事、等の各種審議会委員として豊富な学識経験を国政に反映のかたわら大学院工学部学生を指導して居られる。また美術を愛し、音楽を好み、野球、ゴルフ等のスポーツを理解し、楽しんで居られる。

榎地伊三郎 東北大電気科卒業、工学博士、日本大学理事、工学部長。

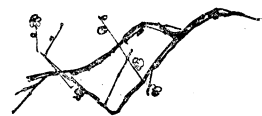
松島俊之 元横須賀市建築課長、日大工学部建築科卒業、一級建築士、横浜建築研究所長、神奈川県建築士会専務理事、神奈川県建築審議会委員、横須賀建築審査会、日大工科大学校友会。日本建築士会連合会理事。

植之原道行 工学部電気科卒業、昭和27年より4ヶ月オハイオ州立大学工学部電気科に極超短波電子管の研究に従事、昭和31年帰朝、昭和32年再度渡米目下ベル電話研究所の招聘により研究員として研究中、(電気科助手)

池森亀鶴 工学部機械工学科卒業、集塵機其他の研究をされた。

鈴木清造 高工土木科卒業、東京都市源池としての奥多摩湖建設の技術陣は其の大部分が「桜工」の会員であつたが其のピークとしての鈴木氏の公私に亘る活躍と続行力が良い意味での「縁の下の力持」となつた事を再認識する。

亀井幸次郎 工学部建築学科卒業、損害料率算定会火災技術部技師として活躍、兼ねて桜工編集委員幹事、校友会理事として積極的に活躍、桜工編集の中心的人物である。猶余技として桜門ゴルフ倶楽部創立の世話人でもある。



桜工 第10号

昭和33年1月20日 印刷
昭和33年1月25日 発行

編集人 藤田 実
発行人 高木 政司

東京都北区中十条3ノ23
印刷所 協永堂印刷 KK
電話 (01) 2124・7090 番

東京都千代田区神田駿河台1ノ8
発行所 日本大学工科大学校友会
電話東京 (24) 7711 代表9番
振替口座東京 162710 番